

鳥取県の将来ビジョン(令和2年改訂)[素案]の概要

改訂の趣旨

- ・2008（平成20）年に策定した将来ビジョンの基本的な考え方を継承しつつ、新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変容や、AIやロボットなどの先端技術の進展とともに、先端技術で代替できない豊かな自然や人々の絆など、今後も変わらない本県の強みを踏まえた、2030（令和12）年における鳥取県の姿（持続可能な地域）を示すため、改訂するものです。

将来ビジョンの性格

- ・鳥取県のおおむね10年後の姿を県民の皆様と共有し、県政運営の基本となるものです。
- ・県民、NPO、住民団体、企業、大学、市町村などの様々な主体と協働・連携して、地域の持続的な発展を実現していくための共通の指針となるものです。
- ・毎年度の予算編成時に具体の施策、個別の事業を県民の皆様とともに作り上げていくための指針となるものです。
- ・令和2年3月にSDGsの理念を盛り込み策定した「鳥取県令和新時代創生戦略」との整合を図るとともに、具体的な施策を示した同戦略の重要業績評価指標（KPI）を指標として活用します。

時代の流れと社会の変化

① 新型コロナウイルス感染症拡大後の社会変化

密閉、密集、密接を避けた日常生活や働き方が求められることで、リモートワーク、オンライン会議などが普及、非接触型の需要に対応した新しいビジネスが生まれるとともに、安全・安心を求めた地方への移住希望、サプライチェーンの国内回帰や地方都市への企業の機能移転等の動きの高まりがみられます。

② SDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）

SDGsは、2015（平成27）年9月の国連サミットにおいて採択された、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を目指す2030（令和12）年に向けた国際目標です。本県でも、県民をはじめ市町村、企業、NPO、大学などとのパートナーシップを活かし、オール鳥取で持続可能な地域社会の実現に向けて取り組みを開始しています。

③ デジタル技術の飛躍的進化による変革、Society5.0（※）の推進

今日、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）などの先端技術が急速に進展しており、本県では、官民が連携して、『鳥取県版 Society5.0』の実現を目指しています。

④ 人口減少・少子高齢化の進行

2030（令和12）年の本県の人口は、2019（令和元）年から4万人程度減少し、65歳以上の高齢化率は約35%となる見込みです。子育て支援や移住定住の促進など、人口の自然減・社会減対策を同時に進め、人口減少に歯止めをかけながら、地域の活力を持続させていくことが必要です。

⑤ 地球温暖化と気候変動の状況、自然災害のリスクの高まり

近年、地球温暖化が進み、気候変動に伴う豪雨の多発など自然災害のリスクが高まっています。本県では気候変動を緩和するため、2030（令和12）年の温室効果ガスの排出量を2013（平成25）年度比で40%削減、2050（令和32）年には実質排出ゼロを目指しています。

⑥ さらに高速交通網の充実

山陰道（北条道路）が2026（令和8）年度に供用開始される予定であり、2030（令和12）年に向けて県内移動がさらに便利になります。

※Society5.0：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。膨大なビッグデータをAIが解析し、その結果がロボットなどを通して人間にフィードバックされることで、これまでにできなかった新たな価値や産業が社会にもたらされることとなります。

2030年の鳥取県の姿

【基本理念】「活力 あんしん 鳥取県」～心豊かな充実生活をめざして

基本理念の実現のために、鳥取県の2030年の姿を次の6つの視点で描きます。

1 ひらく 地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉をひらく

- (1) 時代の変化に応じ新たな需要を獲得できる産業が創出（ニューノーマル型ビジネス）
- (2) 県内企業がITやロボット等の先端技術を使いこなし国内外で活躍（デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進）
- (3) 場所や時間にとらわれない働き方が実現（テレワーク、兼業・副業、ワーケーション等）
- (4) 農林水産物のブランド確立と多様な担い手が活躍（スマート農林水産業の推進）
- (5) 国内外の旅行者が増加するとともに、多様な分野の海外交流が発展

2 つなげる 力をつなげ、結集して、持続可能で魅力あふれる地域を創る

- (1) 県民、市町村、企業、NPO等との協働により持続可能な地域が実現
- (2) 移住定住（若者のIJUターン等）や関係人口が増加
- (3) 住民が安全・安心に暮らし続けられる中山間地域が形成
- (4) 魅力があふれ人が集い、にぎわいのある中心市街地が形成
- (5) 高速道路などの高速交通網や物流拠点が充実（高速道路のミッシングリンクの解消）
- (6) 超高速情報通信網が充実し、ICTの高度活用により産業や生活の質が向上

3 守る 豊かな恵み・生活を守り、次代につなぐ

- (1) 新型コロナウイルスなどの新たな感染症に対応する体制が確立
- (2) 循環型社会・低炭素社会が確立（プラスチックごみ・食品ロスの削減、温室効果ガスの削減等）
- (3) 人と自然が共生し、美しく豊かな自然が継承（生物多様性の維持）
- (4) 先端技術を活用した医療、地域支援、健康づくりの実践で健康寿命が延伸（遠隔医療、フレイル予防、認知症予防等）
- (5) 地域ぐるみの活動とIoT等の活用や生活空間の環境整備により、日常生活の安全が確保
- (6) 災害に強い県土の形成が進み、防災・危機管理対策が向上

4 楽しむ いきいきと楽しみながら充実した生活を送る

- (1) 豊かな自然、食、文化、歴史、芸術を知り楽しむことができる鳥取
- (2) ワーク・ライフ・バランスが充実し、活力ある生活が実現
- (3) いつでもどこでも誰でもスポーツを楽しめる環境が実現
- (4) 誰もが学び、主体的にキャリアアップを図る機会が充実

5 支え合う お互いを認め、尊重して、支え合う

- (1) 多様性を互いに認め、支え合う共生社会（多文化共生、マイノリティ）
- (2) 家庭・地域・職場で心豊かに暮らせる男女共同参画社会
- (3) 障がい者・高齢者がいきいきと暮らす地域社会
- (4) DVや児童虐待など支援の必要な方が生活しやすい環境が整備

6 育む 次代に向けて、躍動する「ひと」を育む

- (1) 地域や職場との連携などにより、安心して子育てできる環境が進展
- (2) 高等教育機関等が県内産業界等と連携し、地域が求める人材を輩出
- (3) 子どもたちの地域への愛着と誇りが醸成（ふるさとキャリア教育の推進）
- (4) 社会の変化に対応できる力を身につけた人材を育成（主体的・対話的で深い学びの推進、ICT活用教育）